

平成26年度 学校評価

印については、(A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善) という意味です。

教育課程	B	教育目標の共通理解 学校内の様々なところに掲示することで、児童への理解が進みました。保護者等の理解に関しては進んではいますが、まだ不十分です。保護者や地域に対してあらゆる機会に情報発信します。特に学校だよりには毎回記載します。また、行事を含め、あらゆる教育活動で目標を意識した取組を進めていきます。
	B	学習タイムの効果的な実施 合唱、読み聞かせ、読書、基礎学習などの活動を真剣に取り組んでいます。朝の合唱の取組により、歌声は響くようになりました。今後、集会時の返事や発表の声を大きくできるような取組を考えています。発表、音読、暗唱など日本語を大きな声で発声する時間も設けていきます。
	B	学校行事の精選と計画的な実施 年間計画に位置づけ、実施1ヶ月前にはねらいや練習時間・方法等詳細に協議され、スムーズに運営され、成果もありました。内容や準備のための労力等を検討し、更なる精選を図ります。教職員全員に浸透していたか、疑問という内部の声もあります。行事の精選を念頭に置いて今年度中に来年度の計画を立てます。今年度以上に職員会議で行事実施計画について協議を深め、共通理解を図ります。
	B	家庭学習の改善と質的向上 高学年において、家庭学習の時間が増加しました。しかし、「自ら学ぶ」という点までには至っていません。与えられたことについてはしっかりできています。一部ではありますが、TVやネットに費やす時間が非常に長い児童がみられます。「すたなび」等を通じ、全国学力学習状況調査の分析結果を伝え、生活習慣や学習習慣の改善について家庭への協力と啓蒙を図っていきます。
学習指導	B	学習規律の定着 予鈴によりチャイムと同時に学習の始まりができてきました。聞き方や聞く態度に課題があります。全職員の意思統一と取り組み姿勢の徹底していきます。
	B	基礎・基本の定着と活用力の育成 基本的な知識理解や技能については、概ね定着できています。発展的な課題や初めて出会う問題に対して苦手意識が強い傾向のため、授業の中で考えを深める活動を多く入れていきます。また、発展的な課題に取り組む時間や環境整備に努めていきます。
	B	表現力の育成 ペア、グループ、全体など様々な形態で話し合い活動を実施しました。教育活動の様々な場面で、児童が言葉で表現する機会を設定しました。集会などで大きな声で返事をしたり、発言したりできない児童がいます。学年に応じた話型指導を職員の共通理解のもと、推進していきます。学習タイムを活用し、大きな声で話す活動を取り入れていきます。
	B	兵庫型教科担任制の効果的な実施 算数科で少人数授業を実施し、基礎基本の充実やつまずきのある児童など一人一人に対応した学習指導を行いました。少人数を活かし、より発展的な課題に取り組ませる機会を充実させる必要があります。習熟の度合いに応じ、発展的な課題に取り組める時間、環境を整えていきます。
	B	指導の工夫改善と教材教具の活用 ICT機器の使用頻度も高く、授業での活用もできています。多様な課題に対して対応できずにあきらめる児童がいるので、授業の中で、課題を確認する時間と振り返りの時間を設定していきます。ノート指導などの書く活動とホワイトボードを活用した表現活動をこれまで以上に取り入れていきます。
	B	総合的な学習の時間の計画的な実施 計画通りの内容が概ね実施できました。実施内容や成果について振り返る機会を持つことができました。学習の成果を表現する場が少ないように思われます。学校として系統立った全体計画を尊重しながら、学習内容について交流する機会を設定したいと考えています。
生徒指導	B	基本的生活習慣と規律の育成 職員室の入り方や鍵の借り方など大変良くなった面があります。トイレのスリッパをそろえる、後片付けや廊下を走らない等の課題が残っています。全職員の共通理解のもと、児童会や代表委員会など児童主体で改善方法を考えさせ、根気強く指導を続けていきます。
	B	命・人権を大切にできる心情・実践力の育成 低学年児童の面倒をみたり、優しく接したりする態度が見られました。年間指導計画どおりの活動が実現できませんでした。全体計画や年間指導計画の見直しを考えています。
	A	あいさつの徹底 大きな声であいさつできる児童が増えてきました。地域からの反応もありました。よくなってきているが個人差があるので、朝のあいさつ運動の実施やあいさつカード(自己評価)の取組など、今後はさらに質を上げる手立てを考えていきます。
	A	個に応じた特別支援教育の推進 特別支援教育支援員の活用と特別支援委員会の定例開催により全職員が共通理解を図りながら推進できました。支援の必要な児童についてその実態や対応についてより深く共通理解を進める機会も必要です。専門家を招聘し、職員研修を実施していきます。支援委員会の持ち方の工夫も考えていきます。
	B	全教職員の共通理解 職員全員参加の生きる力委員会の定例開催により共通理解を図ることができました。効率的な会議運営や討議を深める研修を実施できるよう考えています。
特色ある取り組み	B	安全・防災教育の計画的な実施 全教職員参加の下、様々な事故・状況を想定した救急訓練、防災訓練を実施し、マニュアルの見直しを図りました。登下校時の被災に対する対応が不十分です。各家庭での一時避難所や災害対策に関する決め事などの確認ができていません。安全マップを活用し、実際の行動について確認する時間を設けていきます。各地区における一時避難所への避難訓練の計画を検討します。
	A	地域の特色を生かした体験学習の実施 各地区の産業や施設を活用した体験学習を実施することができました。新たな学習内容や地域の素材を開拓したいと考えています。地域の人材データベースの作成も検討しています。
	A	地域の特色を生かした食育の推進 いずみ会と連携し、学年ごとの食育調理実習ができました。郷土料理等も定着しています。お弁当の日の回数を増やし、参加学年を広げたいと考えています。
	B	幼・小・中の連携 小中連携連絡協議会を受け、組織的に取り組むことができました。各幼稚園との交流も計画的に実施できました。小中連携連絡協議会を活用し、子どもたちとの交流の機会を設定できるよう、中学校や近隣の小学校との連携を図りながら推進していきたいと考えています。
	B	縦割り班活動の計画的な実施 児童は「ふれあい集会」を楽しみにしています。日常的な縦割り活動が不足しているため、業間に縦割りグループ遊びを取り入れていきます。年間を通した縦割りグループ活動を実施していきます。
	A	ふるさと探訪の実施 地域の方々の協力を得ながら地域の産業や文化について学習することができました。地域の方々の学校に対する協力が増えました。地域の人材発掘にもつながりました。
開かれた学校づくり	A	様々な方法による情報発信 あんしんネット全員登録完了、グループ管理も可能となりました。「すたなび」については、保護者の欲しい情報が適切に発信されています。あんしんネットのホームページの活用ができていません。地域との連携を図るために、幅広く情報発信を実施していきます。学校ホームページとあんしんネットのページの活用の仕方を考えていきます。
	B	住民参加と協働の教育実践 老人会の協力を得た「昔遊び」が実施できました。5年生との交流(囲碁ボール)は、授業時数確保の点で今年度は見送りました。今後、高学年との交流について検討する必要があります。地域の諸団体とより広く連携しながら、新たな活動を模索していきます。
	B	P T Aとの積極的な連携 情報モラル・情報管理について講演会を実施し、好評でした。
家庭・地域に信頼される学校づくり	A	教師力を高める職員研修の実施 全教職員が研修テーマをもとに授業を公開し、研修を進めることができました。ちよんせいこ氏を招いて、ホワイトボードを活用した授業づくりの校内研修を進めることができました。どの学年も大いにホワイトボードを活用しているが、耐久性に課題があります。情報機器の活用や情報モラルなど研修課題があります。校外で研修した内容を伝達するなどの伝達講習なども必要です。多くの研修内容があるが、計画的な研修を進め、継続的に実施を検討していきます。